

金光寺は七条間の町の行當にあり、七条道場と称す。時宗にして本尊は阿弥陀仏を安置す。脇壇には一遍上人の像あり。「此上人の俗姓は伊予国河埜七郎通久が息なり。ある時別府通広が妾二人墓盤を枕として臥す、かの両の蔓蛇と化して頭を立て鬪ふ、通久これを見て大に驚き、忽剣をぬいて段々に斬、これより妄執輪廻を觀察して不羈の僧となる、時に建長年中なり、始は台教を学び、又熊野に詣て權現の示現を蒙り、四句の文をさづかり、これより時宗と改め、六十万人決定往生の札を弘む」旧此地は仮工法橋定朝が宅なり、後に上人に寄附して寺となす。